

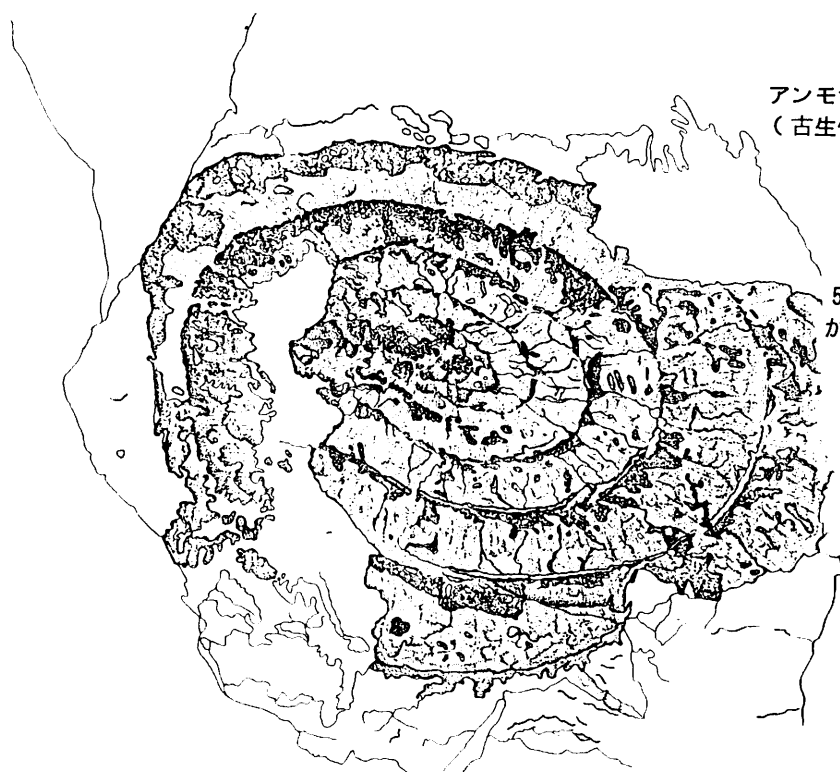
# 協議会ニュース

22号

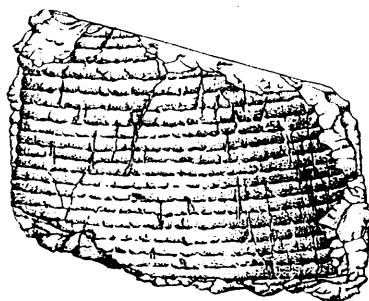
愛知県自然観察指導員連絡協議会

63. 7

## 古生代への誘い

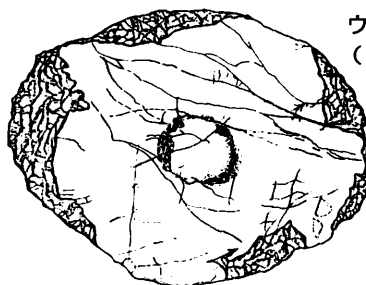


小形(径2 cm程)の種類もある



ウミウリ

X 1



ウミユリ  
(古生代末・二疊紀)

X 1

採取：木原 寿代 (三重県指導員)  
作画：辻 伸夫 (西三河支部)

## 季節の話題

### 蜉蝣(かげろう)

はかない生命のたとえとして使われるカゲロウは、古くから文学に登場します。

右大将藤原道綱の母の「かげろう日記」は「蜻蛉日記」と書きますが、現在では「かげろう」は蜉蝣と書き、蜻蛉はトンボを意味しています。いつの時代に蜻蛉が蜉蝣と変わったのかを調べてみてもおもしろいでしょう。

一方、日本名と英名や独名を比較すると、各々の国民性というか生物を見る視点の違いが現われることが、しばしばあります。今回のカゲロウはその代表的な例ですので、簡単に説明してみましょう。

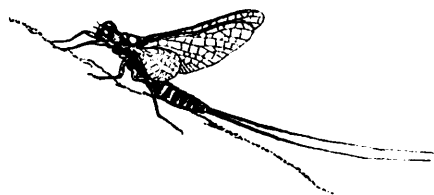
(日本名) カゲロウ………<sup>かげろう</sup>気象現象の陽炎のように、ゆらゆらとゆらめいて飛ぶ姿から名付けられた ⇨情緒的命名

(英名) MAY FLY………5月(MAY)頃に、川から空中へ集団で羽化するところから名付けられた ⇨科学的命名

日本名は明らかに情緒的な風情から名付けられたものであり、英名は生態的な見地から名付けられたと思われます。こんな小さな観察からも、日欧の自然観の違いの一端がうかがえます。その点では、近年の命名法は科学的とはいえません。例えばミジカオフトバコカゲロウは「短尾双翅小蜉蝣」の意味ですが、何となく趣の乏しい命名のような気がします。

私達自然観察指導員は、どんな見方で自然を見るのが適切なのでしょうか。

(北岡明彦)



ナミヒラタカゲロウ垂成虫

## 協議会ニュース 22号目次

- ・古生代への誘い ……………(辻 伸夫)……表紙
- ・季節の話題 かげろう ……………(北岡明彦)……1
- ・表紙のことは ……………(木原寿代)……1
- ・会員紹介⑦……………(佐藤国彦)……2
- ・特集 全県一斉自然観察会 ……………(編集委員会)……3
- ・マイ・ウォッチング  
エダナナフシの擬態 ……………(鈴木利久)……6
- 豊田-蒲郡 50 kmハイク自然観察メモ(中西 正・伴了)……7
- ・会員広場 …… (後藤 春・三田 孝・榊原正躬)……9
- ・おたよりコーナー ……………(山田果与乃)……10
- ・支部だより ……………11
- ・協議会行事報告 ……………13
- ・調査員大募集  
アミメカゲロウ発生状況調査 (調査委員会)……14
- ・行事案内 ……………15
- ・お知らせ ……………15

### 古生代への<sup>いざな</sup>誘い

1987年10月三重県で初の自然観察指導員講習会が<sup>いなべ</sup>員弁郡藤原町で開催されました。かなりの申し込みがあった様でしたが幸運にも参加することができました。

講習会終了後、友人に誘われて出かけた近くの石灰岩地帯で偶然にも古生代二疊紀のアンモナイトを見つけました。2億数千万年もの昔に南太平洋の海の中で生息していた生物の化石が、その後のプレート運動により運ばれて、藤原の地に現われたのです。

この小さな化石達が私に語りかけたかったことは、いったい何だったのでしょうか。

(三重県自然観察指導員

木原寿代)

## 私 と 自 然



高校時代から登山を続けてきた私にとって、自然という言葉はほとんど山と同義語でした。なぜ山へ登るかという問いには誰しも明確には答えられないようですが、自然と

のかかわりを求める気持ちが山へ行く動機になっていることは間違いないようです。

数多くの山脈で、苦しかったこと、感激したことなどをいくつも思い出すことができます。高校の頃、1人で夜道を木曽駒ヶ岳へ登った時には、下の方に見える街の灯がとても暖かそうで、どうしてこんな暗い道を淋しい思いをして登るのかと考えたものです。山小屋へ1人だけで泊るのはもっと気持ちの悪いもので、周りにローソクを数本立てて、寝るしい夜を過ごしたことがあります。3月初めの木曽駒ヶ岳の頂上が見たくて、2人で腰までの雪の中を何日かけて結局登れなかったことも2回程ありました。沢を登っていて、滝の途中に生えている灌木につかまったまま進退極まり、後は夢中で草をたよりにして何とか登ったものでした。

こうしたことが、自然に対する私のささやかな闘いで、自然はその代償として美しい一面を数多く見せてくれました。森林の中の小さな湿原、沢の源流の美しい流れとまわりのお花畑、苔むした深い樹林、朝日に輝く雪峰など。そして、山を想うときには木の匂い、土の匂い、鳥の声なども蘇ってきます。

山の自然をより深く味わうには、むしろ道も無いような場所が望ましいと思われれます。藪を分けたり、沢の中を歩いたりしながら、地図と自分の勘を頼りに登る。時にはテントも無しでビニールを被って寝る。その中に自然と自分の交流があるように思います。

こうして、登山を通じて、よりすばらしい自然、美しい自然を知ることができました。しかし、一

### 佐藤国彦(運営委員長)

方では各地で自然が失なわれていることに悲しみを覚えていましたが、良い自然が残されているうちに少しでもたくさん見ておこうということしか考えませんでした。

昭和55年に愛知県で指導員講習会があり、そこで自然に対する見方に大変影響を受けました。自然は決して深山幽谷ばかりに求められるのではなく、身近な生活の場においても存在し、それも美しさや神秘を持ったものであること、さらには自分の生活がそうした身近な自然の影響下にあるという実在に当然のことに改ためて気がつきました。知識としての生態系の概念はあっても、それを自分自身とかかわりのあることとは思わなかったのです。

今までの自分の世界を否定する訳ではありませんが、単なる心情的自然保護論を唱えるだけでなく、自然を巾広くとらえ、自然の大切さを多くの人に伝えること及び自然を守ることに自分も参加すべきではないかと考えるに至りました。こうして、私と協議会のかかわりが始まった訳です。

自然観察会等では、自然は生きていること、自然に対する自分の気持ちを伝えるよう努めていますが、微力のため思うほどの効果は期待できないようです。そのためだけではないでしょうが、今の自分が自然のためにほとんど何もしてないことが気になっています。

黒沼ユリ子の「メキシコからの手紙」の中に、「事実、私ができることは、ただ自分で直接彼らを搾取しないということだけで、私が享受しているすべての現代的な居心地の良さは、間接的ではあっても、彼らの犠牲の上にのみ成り立っているのだ」とあります。この彼らとはメキシコのインディヘナなど後進国の人々のことですが、これを自然のことと読み替えてもよいような気がします。自然の犠牲の上に成り立つ文明を享受しながら、自然のために大したことができない自分を悲しく思っています。

## 全 県 一 斉 自 然 観 察 会

編 集 委 員 会

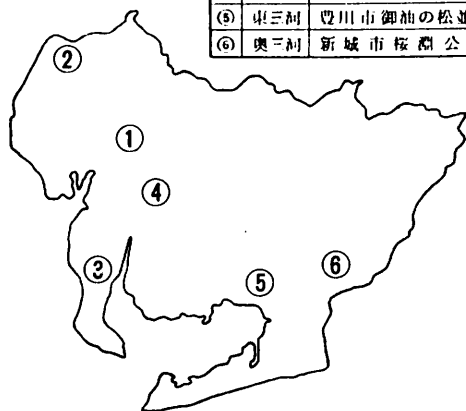
我ら協議会初の試みとして、環境週間にあわせて6月5日(日)に、全県一斉自然観察会を実施しました。昨年までは、この時期に全県一斉ブナ林自然観察会の一環として稲武町面ノ木峠のブナ原生林で観察会を行っていました。

今回の観察会の総まとめをしてみましょう。

各支部

開催場所

①	名古屋	名東区平和公園
②	尾張	一宮市光明寺緑地
③	知多	半田市空の科学館周辺
④	西三河	刈谷市洲原池周辺
⑤	東三河	豊川市御油の松並木
⑥	奥三河	新城市桜島公園



## 1 開催場所と参加者数

身近な自然を見直そうということで、開催場所は上図のように設定しました。各々の地域では、比較的知名度のある所ばかりです。

まず、当日の参加者数と指導員数を、大人・子供、男性・女性別にまとめると次のようになります。

支 部 名	参 加 者					指 導 員		班 分 け
	大 人		小 人		計			
	男	女	男	女		男	女	
名 古 屋	2	3	2	0	7	11	1	1
尾 張	4	8	6	2	20	14	5	2
知 多	10	13	13	9	45	7	1	4
西 三 河	0	2	0	0	2	10	1	1
東 三 河	7	14	5	1	27	13	2	2
奥 三 河	1	7	16	23	47	6	0	1
合 計	24	47	42	35	148	61	10	

支部別の参加者数

参加者は最多47人から最少2人で、場所により大きな差がありました。さすがに参加者2人ではガッカリしますね。参加者より指導員の方が多かった名古屋・西三河両支部では、研修的な観察会になったそうです。

## 2 広報手段

初の県下一斉観察会ということで、事前に運営委員会で広報手段をいろいろ検討しました。

そして、各支部とも広報にかなり力を注ぎ、次の手段で参加を呼びかけました。

## ① 新聞掲載……運営委員会・支部から依頼

朝日新聞(全支部・5/26)

中日新聞(全支部・5/26又は5/30又は6/3)

東海日日新聞(東三河・5/23)

東愛知新聞(東三河・5/23)

## ② 市町村公報掲載……支部で依頼

一宮市(尾張・5/25)、半田市(知多・5月上旬)、音羽町(東三河・5/1)

## ③ ちらし配布

名鉄豊田線日進駅及び名古屋市内社会教育センター3ヶ所で計105枚(名古屋・5月下旬)、一宮市理科教員サークルで100枚(尾張・5/25)、半田市児童センター他3公共施設で100枚(知多・5月中旬)、刈谷市小堤西池で20枚(西三河・6/4)、豊橋動物園及び豊橋自然史博物館で約2000枚(東三河・5/4～5/29)

## ④ その他

コミュニティー紙「知多文化」に掲載(知多・5/1)、下見の際に呼びかけ(西三河・6/4)、前年度の観察会参加者への通知(東三河)、新城市子供会等3団体に通知(奥三河・5月下旬)

こうした広報活動への力の入れ方と参加者の数には、かなりの相関が見られ、広報活動の重要性があらためて認識できました。

### 3 観察会の状況

観察会当日は快晴で、最高気温が名古屋で27度にもなり、炎天下での観察会となりましたが、風が強くてさわやかさはありました。しかし、6月2日から3日にかけて大雨が降ったため、河川の水量が多く、水生昆虫の観察には支障がありました(尾張支部及び東三河支部)。

今回の観察会を実施するにあたり、統一テーマを3つ設定し、県内各地における自然条件の違いを調べることにしました。①ベイトトラップによる森の掃除屋調査 ②咲いている花の調査 ③野鳥調査ですが、①について、その結果を紹介しましょう。

ベイトトラップに誘引された昆虫は下表のとおりです。シデムシの種類は、地域の森林の残存状況と密接な関係のあることがわかっています。(大野正男編「指標生物」日本自然保護協会刊を参照)県下6か所の同時調査により、シデムシと自然環境の関係を観察するのが目的だったのですが3種類しか、シデムシは誘引されませんでした。時期は最適ですから、前々日までの雨により事前の設置ができなかったことと、トラップに問題があったのでしょうか。(設置場所・構造・餌の腐り具合・トラップ設置数のいずれかが考えられる)いつかもう一度挑戦してみたいと思っています。

しかし、尾張支部では担当幹事の努力で24個もののトラップを設置した結果、コクロシデムシ(比較的人為環境に耐えられる種)4頭とヒメヒラタシデムシ(森林地帯に多い種)1頭が得られました。平野部に残された樹林帯である光明寺緑地の自然環境と、2種類のシデムシの生活環境がビ



タリと一致し、参加者一同の関心を得ることができました。環境指標生物の面目躍如といったところでした。

一方、腐肉の臭さに恐れをなして近くに寄らない参加者もいました。シ

ヒメヒラタシデムシ デムシには、そのぐらいの臭いが最適なのです。特に1週間前に設置したトラップはイワシの肉が完全に腐り、コクロシデムシ2頭とエンマコガネ類多数・ハネカクシ類2頭が集まり、大成功でした。

また、東三河支部でもイワシ・豚肉・パイン各7個ずつトラップを設置した結果、いろいろな生物が誘引されました。オオヒラタシデムシ(成虫1、幼虫13)が圧倒的に多く、草地的な環境をよく示しています。また、林地ではミカワオサムシやゴミムシ類が多く落下しました。

その他にもダンゴムシ類の誘引結果もなかなか興味深いものがあります。平地で人為的作用を強く受けている光明寺緑地は帰化種のカガダンゴムシなのに対し、周辺に自然が豊かな桜淵公園では在来種のセグロコシビロダンゴムシでした。他の地域の様子がわかると、もっとおもしろい結果となったでしょう。

他の2種類の調査は、調査方法の徹底が充分でなかったため、各支部間のバラツキが大きくやや期待はずれに終わりました。しかし、帰化植物の多さ・ヒヨドリやスズメ等人為環境に強い鳥の多さなど、身近な自然を表わす結果が得られました。

各支部のベイトトラップ結果表

支部名	トラップ数	シデムシ類	その他の昆虫
名古屋	4	—	センチコガネ(5)・コブマルエンマコガネ(12)・アリ類(多)
尾張	24	ヒメヒラタシデムシ(1) コクロシデムシ(4)	コブマルエンマコガネ他1種(多)・ヨツボシケシスイ(1)・ケシスイ類(2)・サビキコリ(1)・ハネカクシ類(2)・アリ類(多)・ツチカメムシ(1)・オカダンゴムシ(5+)
知多	3	—	—
西三河	未設置	—	—
東三河	14	オオヒラタシデムシ(14) ・ヒメヒラタシデムシ(1) コクロシデムシ(1)	ミカワオサムシ(1)・アトボシアオゴミムシ(1)・ヒメホソナガゴミムシ(2)・ノグチナガゴミムシ(4)・ミツノエンマコガネ(1)・ダンゴムシ類(2)・クモ類(2)
奥三河	2	オオヒラタシデムシ(5)	ツヤエンマコガネ(1)・アカハネカクシ(1)・セグロコシビロダンゴムシ(3)・クモ類(1)・ザトウムシ類(1)

注：( )内は個体数

#### 4 観察会の反省と今後の課題

今回の観察会の実施状況を調査して今後の活動への一助とするため、編集委員会が統一様式で実施状況調査をしましたので、その結果を紹介しましょう。

### ① 班分けの方法

今までは、人数により適当に班分けすることが多かったのですが、年齢別・分野別・親子分裂型などが考えられます。

今回は参加者が比較的少なかったためあまり問題になりませんでしたが、知多支部のように受付時に記入してもらう申し込みカードによる班分けが、整理上最も適切のように思います。

## ② パンフレット作成

パンフレットをどういう形で作り、どのように使うかというのは、観察会実施のうえで大きなポイントになります。現状は、参考資料として配布する程度で、観察会ではあまり使っていないことが多いと思われます。

パンフレットを観察会で有効に使うには、①開催場所に即したパンフレット作り ②指導員への早期配布が重要です。今回の調査では、パンフレット配布時期の遅さが目につきます。下見までに指導員に配布できたのは、わずかに知多支部だけでした。やはり、下見の際にリーダーがパンフレットで確認しながら、記入をし、解説事項を決める必要があるでしょう。

### ③ 名札の着用

リーダーと参加者のコミュニケーションをはかるには名札の着用が有効ですが、尾張支部では指導員の名札もありませんでした。一方、東三河支部では指導員だけでなく参加者も名札を着用しており、質問をする時や人員チェックに有効と思われます。

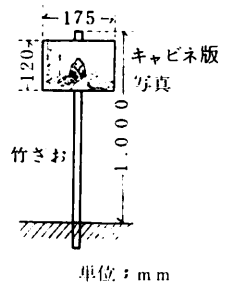
#### ④ 観察会の小道具利用

これからの観察会をバリエティーに富んだものにしていくためには、いろいろな小道具を使うことも良い手段だと思います。

今回の観察会は時間が短かったため、ベイトトラップ以外はあまり使われませんでした。ルーペ・双眼鏡以外には、捕虫網（尾張・奥三河）、叩き網（名古屋・尾張）、水生昆虫用ザ

ル（尾張・東三河・奥三河）

程度でした。しかし知多支部では、1ヶ月前(5/1)に撮った写真を右図のような立看板にはりつけ、現在との違いを説明しました。これは、観察会の新しい小道具です。



#### ⑤ 下見の実施状況

下見は各支部 1 回以上実施しましたが、参加人員の少なさが気になります。

このように、観察会の内容自体は比較的充実しており、指導員の説明方法等も良かったようです。

今回の全県一斉観察会を実施して最大の課題はやはり、参加人数の少なさです。県委託観察会では、50～100人集まるのに、どうして今回は少なかったのでしょうか。愛知県の後援はとれなかったものの、先に書いたように新聞・パンフ等PRには力をいれたつもりです。やはり、支部単位での地元におけるPRの強化が必要なのでしょう。

また、今回は環境週間に合わせるため6月5日を選びましたが、5月・6月は各支部とも観察会を計画しており、指導員のやりくり是相当苦労しました。今後の実施にあたっては開催日の再考が必要でしょう。

思わぬ大成果もありました。協議会単独事業としては初めて、テレビ（東三河）と新聞（名古屋と東三河）に出ました。県委託観察会はしばしば取材がありますが、やはり環境週間というのが効果的だったのでしょうか。会のPRには大きく役立ちました。

来年以後、全県一斉観察会をどうするか、会員の皆さんの意見を聞きながら検討していくと良いと思われます。

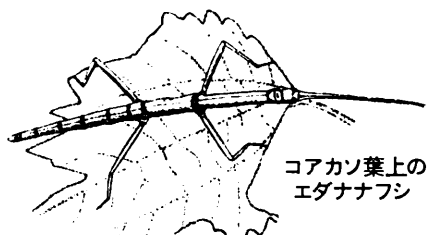
[illegible]

## エダナナフシの擬態

鈴木利久（奥三河支部）

昭和62年9月19日の午後2時30分ごろ、南設楽郡鳳来町でモモの木の小枝にとまって、じっとしているエダナナフシを見つけました。

体の色は、モモの葉と同じ黄緑色をしていました。はじめ見た時は、前脚を体の前方にまっすぐに伸ばし、中・後脚で体をささえる状態で、じっとしていたので、モモの小枝のように見えました。



枯れたススキの葉の先でつきましたが、じっとして動きませんでした。モモの小枝をゆすっても動かずに、じっとしていました。

体に触ってみたら、思っていたより硬く、最初じっとしていましたが、あわてて10cmほど前方に動いて止まって、前と同じような格好をしました。約1時間過ぎても同じ格好をしていました。

次の観察の時に、枯れたススキの茎でエダナナフシを3回ほどつついたら、草むらの中に落ちました。その時も前脚は体の前方にまっすぐに伸ばし、中・後脚は両側に開いたままの状態で、じっとしていました。手で捕えようとしたら、体を上下に動かして逃げようしました。

そこで、赤褐色のナイロン製の網の中に枯れたススキの葉と、モモの小枝を入れて、体色の変化を観察することにしました。

太陽も沈んで、モモの木の下が薄暗くなった頃に見たら、エダナナフシは網の中から出ようとして動きまわっていました。

翌朝午前9時頃に、網の中を観察しました。昨日の体の色（黄緑色）が一変して、枯れたススキ

の葉と同じ、茶褐色をしていました。網の中から出しても、ススキの葉に止まったまま、同じ格好をしていました。

風でススキの葉が揺れても、エダナナフシは午後5時まで、じっとしていました。しかし、午後7時に見に行った時には、もう姿を見ることはできませんでした。

この観察から、エダナナフシは、周囲の色に合わせて体色を変化させることがわかりました。そして、昼ではなく夜間に活動し、食事も夜間であることがわかりました。

また、夜間に動いている時のエダナナフシの体は柔らかであるのに、昼間は体を硬くして、周りにある小枝のような格好をして、周囲の環境に溶けこんで、敵から身を守っていることがわかりました。

### WANTED. / トゲナナフシ

昭和62年12月の中日新聞に「愛知県下でトゲナナフシを捜そう」という記事ののりでした。隣県では生息が確認されているのに、本県だけが空白になっているのです。このトゲナナフシは、他のナナフシに比べ体が太く、名前の通りのトゲ状突起が体の各部にあります。また、体色も茶褐色一色で緑色にはなりません。



2年程前に、豊田市の猿投山で見たという情報もあります。(標本紛失)  
私は、昭和62年5月5日に三重県の藤原岳山麓でコアカソにとまる♀を一匹見ました。

(北岡)

# 豊田一蒲郡 50kmハイク自然観察メモ

中西 正・伴 了(東三河支部)

昨年(1987)の11月22日、蒲郡市青年団主催の「第3回50kmハイク」に参加しました。豊田市役所に午前7時40分集合のため、家(豊橋)を出たのは5時前で星を頂いてでした。コースは豊田市役所→松平郷→岡崎→幸田→蒲郡市役所で、岡崎の南公園付近で太陽は低くなり、幸田町を歩く時には暗くなっていました。その後ゴールする19時までは暗い中の歩行でした。

私達のグループは岩崎員郎氏をリーダーに5名で、そのうち4名が自然観察指導員でした。このため、ただ歩くだけではつまらないということで、各自が観察テーマを持って参加することにしました。そのうち「松枯れ」「河川の様子」(中西)、「野鳥」(伴)のメモをまとめました。他には、「屋敷内のカキの木」と「セイタカアワダチソウ」でした。

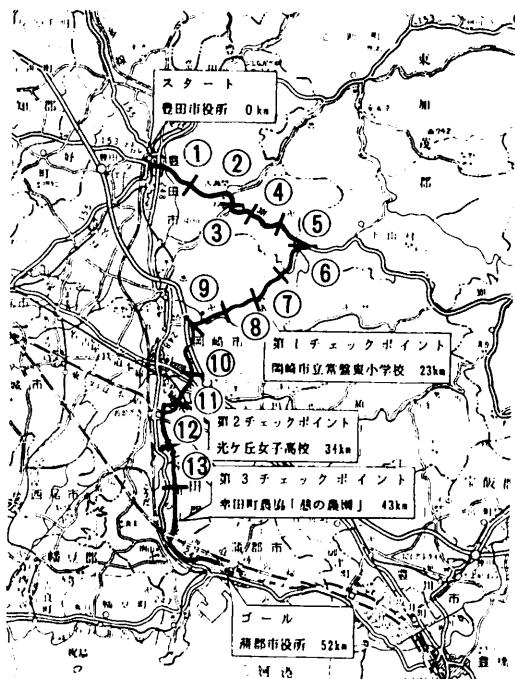
まとめるに当っては陽が出ていて観察可能な第3チェックポイント(43km地点)の前までとし、ここまでを地形・道路等で13区画に分けました。その間隔はほぼ平均して、約3kmでした。

## 1 松枯れ

三河全域に松枯れは見られます。しかし、地域によって、その状況は異っていると思われます。記録は松枯れによってマツが全滅(面的)した所を◎、部分的(数本)を○、単木を×とし、マツが印象的に残っている所を「マ」としました。

コース全域で松枯れが見られましたが、特に目立ったのは豊田市の東部(№2・3)でした。この地域では、マツは全滅に近い状況でした。ここから山地にかけて№5・6では松枯れが目立つものの、残存松も多くありました。この違いは、山にかかり標高が増すためか、松枯れの発生源から離れているためでしょう。

岡崎市内の№7・8でも松枯れが目立つものの、マツの残存も多くありました。№10・11付近では、松枯れが少なく記録されていますが、これは以前に松枯れが進行し、その痕跡もなくなってしまう



ハイクコースと区画(1～13)

ためでしょう。同様のことが幸田での観察で期待されたのですが、幸田に入った時には日没のため観察できませんでした。

## 松枯れの状況

から、松枯れの進んだ方向は幸田→岡崎→豊田であり、岡崎・豊田では平地→山地の方向だと思われます。そして、現在では平地では激害の時期を通り過ぎ山地が松枯れの激しい舞台になっていると思われます。

区画	◎	○	×	マ	観 察 地点計
1	1	1	1	0	3
2	17	4	1	0	22
3	22	4	0	1	27
4	7	6	0	3	16
5	2	8	6	18	34
6	4	13	0	0	17
7	5	11	0	18	34
8	11	8	0	7	26
9	2	6	1	2	11
10	5	9	1	6	21
11	0	2	0	1	3
12	3	5	0	2	10
13	4	3	1	0	8

区画別マツ枯れの記録



## 2 川の観察

川を渡るときや、川と平行して歩くとき、次の要領で川の様子を記録しました。岸の様子は、3：自然堤防で河畔林あり、2：外側はコンクリートで内側

は土、1：コンクリート護岸に分け、水の様子は、3：水がきれい（オイカワがすむ程度以上）、2：中位（濁る）、1：水が汚いに分けました。

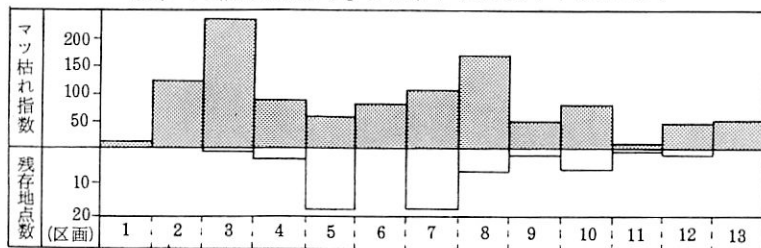
観察数は84地点で、コンクリート護岸は6割を占めていました。水質は良いが3割、中位を含めると8割で、護岸の割には水は悪くありませんでした。岸边と水質の両面からは1・2（前の数字が岸、後が水でコンクリート護岸で水は濁っている）と表わされるものが多くありました。これが今後1・1の方向に移行するのではないかと思います。

今回は大きな川、矢作川・巴川（豊田）で岸・水とも良く、乙川（岡崎）は2・2と評価しました。中河川の滝川（豊田）、郡界橋（岡崎）で3・3でした。青木川（岡崎）の上流はコンクリート護岸であるものの、No.7・8中の5地点での水質は3と良好でした。しかし、下流のNo.9では水質が2になり悪化していました。豊田の境川の下流は3・3ですが、上流で1・1あるいは1・2と、上流の方が悪い所もありました。

区画ごとに平均すると、No.1～3、6～9で水質2以上でした。概観すると岡崎の平地に出てからの水質の悪化が、目につきました。野鳥の観察でカワ

指 数	3	—	2	6
	2	—	4	1
	1	7	10	4
岸の状況				
水質	1	2	3	
	指 数			

岸と水質の相関



セミが見られた相見川（幸田）は、平地にあるにもかかわらず2・2と記録されていました。

## 3 野鳥

歩きながらの記録のため、種の確認が難しいこともありましたが、観察された種類は環境と深く結びついていることがうかがわれました。

スズメはNo.1・2・7・10の人里で見られ、ムクドリ・カワラヒワもNo.1に出てきました。シジュウカラはNo.3・5・7・10の林がある山間部を中心に見られました。最も広範囲に出てきたものはヒヨドリで、No.1・2・3・7・9と平地から山間部に及んでいました。

カイツブリは大河川の矢作川（No.1）におり、幸田町の相見川（No.13）ではカワセミが見られました。セグロセキレイ（No.9）とハクセキレイ（No.10）は、一般に前者の方が上流部に多いものですが、ここでは同じ水系でないために比較はできませんでした。2種類のカラスの関係も興味ありますが、比較できるデータは得られませんでした。

記録のないNo.4・6・8は筆記具の故障等が原因です。

一日だけの観察で、時間的経過もあり一概に地域の比較が無理なところもありますが、長距離ハイキングしながらの自然観察は、楽しさを一つ増やすと共に、自然の見方に新しい視点を加えてくれました。

区画	岸の状況	水質	調査地点数
1	2.2	2.5	2
2	2.0	2.3	4
3	1.6	2.0	5
4	1.0	1.5	2
5	1.0	1.0	1
6	3.0	2.7	3
7	1.3	2.5	4
8	1.7	3.0	3
9	1.5	2.0	2
10	1.0	1.7	3
11	1.5	1.5	2
12	—	—	0
13	1.3	1.7	3

川の様子（指数平均）

区画	鳥 類 名
1	カワラヒワ・ムクドリ・スズメ ヒヨドリ・カイツブリ
2	ウグイス・ヒヨドリ・スズメ ハシボソガラス
3	ヒヨドリ・シジュウカラ
4	—
5	シジュウカラ
6	—
7	ヒヨドリ・シジュウカラ スズメ
8	—
9	ヒヨドリ・コサギ・キセキレイ セグロセキレイ
10	ハクセキレイ・シジュウカラ スズメ・ハシボソガラス
11	カラス類
12	—
13	カワセミ

区画別野鳥観察記録



## ナラガシワの春 妙興寺

(尾張支部 後藤 春)

1月・2月、みぞれまじりの伊吹嵐が、すっかり裸となっているナラガシワの間を吹きぬけ、冬芽は葉や花を堅く堅く包み込んで、寒さに耐えています。暖かい小春日和には、鳥達も林の中に降りてきて、落葉をカサ・コソとひっくり返しています。

3月ともなると、冬芽が動いて、拳骨様のかたちから少しづつ指をゆるめ始め、もうじっとして居られません。

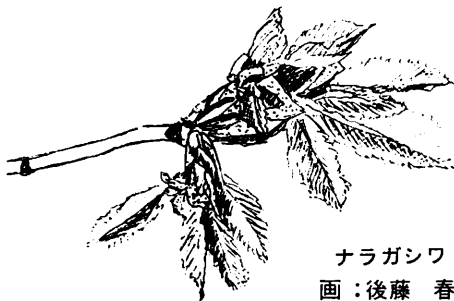
さあ4月、やわらかい葉を2・3枚のぞかせたかと思うと、急に全部の芽から葉も花もふき出し、中旬、花は5本〜8本、長さ7cm〜10cm程に伸ばし、春光をあびて房々と、かんざしのように輝きます。

5月、淡緑の若葉は、10cm〜15cmにもなり、その間をコサメビタキが、フライキャッチに夢中です。やがて、葉と葉が重なり合う林内を、五月雨が静かに、緑色に染めあげます。

あとがき

ここ妙興寺のナラガシワは、胸高囲1.5m前後のもの5・6本、1m前後のもの15本位あって、大分年をとっているようです。又水が大好きで、雨が降ったあと、殊にみずみずしくなります。

私は、辨慶・義経・静御前・その他は家来達等と名前をつけたり、若葉に菓子を盛ったりして、楽しんでます。



ナラガシワ  
画：後藤 春

## 雨の日の弓張山系

(西三河支部 三田 孝)

5月の雨の日曜日に豊橋市東部の弓張山系を歩いてみた。山麓の茸毛湿原や石巻山には何度か足を運んでいたが、その主稜線を縦走したことはなかった。赤石山脈の最南端とも見ることのできるこの山系は北の新城市から続いている。豊橋市に入ってから400m前後の起伏が続き、いくつかの峠を経て二川で終点になる。静岡県側からは、「湖西連峰」と別の名で呼ばれている。

稜線は「豊橋自然歩道」として整備されているのでコースに不安はない。中山峠から二川まで総延長20kmを一日で踏破するのが今回の目標である。各所に峠道や分岐があり、体調に応じて途中で下山することもできる。

当日、豊橋駅からN氏に中山峠の登山口までクルマで送ってもらった。8時50分に歩き始めた。すでに小雨がぱらついていていたが、林道が終わり登山道に入る頃にはしっかり本降りになってきた。これから先の行程を思うとやや気が重くなっていた。

中山峠から本坂峠まではやや草深く、モミの大木の群生地では深山の趣を楽しむことができた。坊ヶ峰の小さな社が不心得者によって壊されていた。そこからまっすぐ駆け下ると本坂峠に出た。

本坂峠から南の尾根道は広くてしっかりしている。尾根沿いに送電線が敷設されているところが多く、電線から発生するうなり音が聞こえる。自然の雰囲気は阻害する音であるが、尾根にある鉄塔や送電線は現在位置の確認に大いに役だつ。

石巻山への分岐からしばらくするとイヌツゲの群落がある。ふだん見かけるイヌツゲの大きさからは想像できない巨木の群落である。老木の大木は雨でけむっていて幽玄な雰囲気であった。

多米峠を通過して神石山あたりから現在位置確認がおかしくなった。いくつもの小ピークを越えるうちに、予想外に早くNHKの中継所に着いてしまった。頭が混乱してきた。このあたりは歩い

たことがあるところなのに、そこで迷うとは思議なことだ。かなり疲労してきていた。ただひたすら歩くのみであった。

最後の東岳からは尾根通しの道が廃道になっており西の山麓を迂回した。迂回の案内は頻繁にあったが複雑な道であった。

結局、終点の二川駅についたのが17時15分。雨の中、8時間25分の行程であった。

ずぶぬれの体をふき、缶ビールを一気に飲み干したら、一心地ついた。体中にアルコールが回っていくのを感じながら完全縦走の満足感にひたった。

## 小動物のいのち

(知多支部 榊原 正 躬)

支部が中心になって行う自然観察会では、採集活動は禁止である。結論的に言えば、現在では、このことは正しいと思うし、参加者にも理解していただきたいことである。

しかし、それに付けても、このことを話すたびに自分の子どもの頃のことを(忘れていたようなことが)、思い出される。昔は、本当によく生きものを殺した。夏の頃は特にひどかったみたいだ。

カエルを捕まえては殺す。その皮をはいで、しかも、腹わたなどをわざわざ出したものを餌にして、田んぼの近くの水溜りでザリガニを釣ったものだ。ザリガニが3~4匹一緒に釣れてくることがしばしばあったような気がする。次にザリガニのしっぽの身を餌にして、ハゼ釣りに行くことになる。釣れたハゼは、やはり家に持ち帰って喰っ

ちったようだ。何のことはない。カエルを殺したのは、生活上の手段となっている。ただ、思い出すのは、ハゼ釣りではよくカニが釣れる。餌を離さないで陸まできたカニは、その場で殺したものだ。子どもの時のハゼ釣りは、ハゼよりカニの方がよく釣れた。ちなみに、今では、カニはめったに釣りあげないで済んでいる。

ヘビを見つけたら追っかけてまでもして殺したし、ハチの巣も見つけたら屋根に登ってまでもして落としたりした。そのため、ハチに3回程さされた。そのうち一度は顔にきされて、2~3日学校を休んだ覚えがある。ナメクジも、何か目の敵のようにして殺した時期があった。そのためか(恐らく、その頃読んだマンガのためが手伝っているであろうが)、ナメクジに襲われる夢を見たことがあった。そうそう、アリも目の敵にした頃があった。平和なアリの住み家をわざわざ堀り起こして、壊滅的打撃を与えたものだ。

それが今じゃ、「ゴキブリだってね、そうむやみに殺しちゃいけないよ。」って言っている。ほんとに、一体この変化はいつ頃から始まったのだろうか。そう昔のことじゃないような気がする。アリもガモクモも、ほとんど殺さないで済ませている。昔と変わらないのは、身にまとわりつく蚊だけである。

今回のリレー投稿は、塚田桂子(尾張)、武田篤(名古屋)、石原 勤(尾張)の各氏にお願いします。(原稿〆切: 8月31日 北岡明彦まで)



おたよりコーナー

カワセミに魅せられて

(尾張支部 山田果与乃)

カワセミの観察に出かけませんかとお誘いがあり、定光寺の正伝池へ。柔かい新芽だった柳もすっかり青みを増して幹や枝が所々しか見えなくなってしまったボート乗り場のあたりに腰を下ろす。右手のせせらぎにキリキリ・コロコロとカワラヒワが群れているのを眺めている時、あっ、白っぽいかたまりの様なものをくわ

えたカワセミが目前に、急降下ダイビング、さっと浮かび上ってボートの舳先へ上る。あら？ 嘴の白いものがない……やや水面を見つめてもう一度同じ場所にダイビング、さっと水面に瑠璃色の背中が見えたかなと思う間もなく、もう一度水面をすくう様にしてからとび上り、一気にとび去ってしまった。

5月11日(水) くもり 午前11時38分

毎週水曜日の午前中が定例観察日ですので、お暇な方は御連絡下さい。

## 支部だより



### 名古屋支部

#### 5月15日(日) 相生山緑地自然観察会

「養蜂の仕事はミツバチを使って花の蜜を集めることはありません」???「最近では農家にミツバチを貸し出して受粉させるという仕事がメインです」「今の農業は農薬を使うので虫がいない、そこで、ミツバチの出番という訳です」なるほど。

観察コースのはじめに養蜂を営んでいるお宅がありましたので、ミツバチの話を聞こうと訪問した次第です。巣箱を観察したり、蜜を試食させていただきながらミツバチの生態や養蜂などについてわかりやすく説明してもらいました。さすがプロ、話の内容が豊富で情熱的な説明に指導員一同感服。迫力ある話を聞き終えた時には、今日の観察会はこれで終了といった雰囲気になってしまいました。

気を取り直して、雨の中、イザ出発。全県一斉観察会の予行演習を兼ねてベイト・トラップをしかけましたので、一同期待しながら中をのぞくと、ゴミムシが2匹ちょっと寂しい結果でした。参加者は地元の人でしたが、相生山緑地を歩くのは初めてという人がほとんどでした。普段なにげなく眺めている林にもいろいろな植物や虫たちが生活していることを観察し、身近な自然を見直してもらえたと思います。雨の中、こじんまりとした観察会でした。参加者7名。指導員8名。

(国枝利満)

### 尾張支部

#### 5月8日(日) 善師野月例観察会

好調尾張支部月例観察会の参加者は、指導員16名と一般4人の計20人。

尾張地域では珍しいアオバセセリ(青緑色)がフジの花(薄紫色)に飛来しており、なかなかカラフルな取合せが好評でした。帰り道、彼女の食樹であるアワブキの大木を見つけて納得。

#### 5月29日(日) 指導員派遣観察会

恒例の犬山市主催の自然観察会が我が支部のフ

ィールド善師野で行われました。雨で一週間延びたため、申込み110人のうち80人の参加となりました。一方指導員は全県一斉観察会の下見と重なり、9名しか集まらず苦闘しました。しかし、人手不足のため新入会員も自動的にリーダーとなり、良い経験となったはずです。

今回は特にテーマを設けず、班毎の参加者(一般大人・家族連れ・ガールスカウト等)に応じた内容にしました。そのため、班によりかなり内容に違いがあったようです。また、サンコウチョウの鳴き声を聞いた運のいい班もありました。

#### 6月12日(日) 定光寺月例観察会

とうとう雨の月例観察会となり、雨にもめげずに集まったのは、わずか6人。初の試みとして、食虫植物の捕虫能力調査を行いました。2人1組にわかれ、コモウセンゴケとイシモチソウの捕虫葉に捕えられた虫の数を調べました。結果は下表のとおりですが、小型のハエ類やカ類ばかりで、写真によくあるトンボやアリは全く捕えられていませんでした。

夕方、ウラクロシジミが非常にきれいでした。(北岡明彦)

項目 捕名	調査 個体数 (羽)	合計 捕虫した 羽の割合 (%)	平均 捕虫数 (匹/株)
コモウセン	279	31.5	0.5
イシモチ	175	25.7	0.4



コモウセンゴケ

### 知多支部

#### 4月17日(日) 県委託自然観察会

県の委託により、磯を主体とした観察会が、美浜町富具岬にて開催されました。集合地野間大坊には、今年も同じ場所にシロバナタンポポが咲いていました。さて陽光に満ちたこの日の参加者は、一般70名(子供8割強)に、指導員13名、県関係者7名、それにTVスタッフが数名健闘していました。開催日が約1か月早まったためか、参加者は昨年 $\frac{1}{3}$ となりました。しかし、指導員の数から見れば、この程度の数が適切なのでしょう。

目的地が昨年までの干潟と比べて遠くなったため、あいさつや野間大坊での観察を短時間で切り上げました。次のポイントまでは狭く車の多い道のため、6班に分かれてスタスタ歩く。30分程で

うんざり顔の子供達も、近づく潮の香を敏感に感じ、やっと元気が出たみたいです。富具神社は格好の緑陰です。2番目の観察地として、神社正面の植生を観察しました。ホルトノキ・ウバメガシ・フウトウカズラなどなど。

次に紺碧の海原を前にワンポイント。ハマエンドウ・ハマダイコン。やっと磯の観察となりますが、その前に、はやる子供を押えて腹ごしらえ。タモの中のナマコを、「怖い、この虫とって!」と叫ぶ子、本当に要領よくカキやカサガイ類をはがす子、カニに関心の強い子などいろいろです。ヒラムシ・ホヤ・ヤマトウミムシなどこの磯で観察された64種（名前不明4種）の中での人気者はアメフラシでした。

また印象的だったのは、地球の誕生・生命の源としての海とその保護について、真剣に聞きとる子供達の目の輝きでした。（菊池今朝和）

## 西 三 河 支 部

### 4月17日（日）指導員派遣観察会

三河湾国定公園30周年を記念して、日本モンキーセンター・名鉄・中日新聞社共催で、幡豆町のうさぎ島・さるが島の自然観察会が実施されました。好天に恵まれ、30名の参加を得て、西三河支部の岡田・高瀬さんを始め大竹会長らにより、楽しい観察会になりました。

両島は暖帯性の植物が分布し、島特有の多彩な自然に恵まれており、開園30周年を記念して作成された冊子をテキストに使いました。当日は春の大潮の日に重なり、うさぎ島の磯では貝・カニ・海藻類やナマコなどを観察し、また、その場で参加者が採ったアサリを焼いて、しばしのアウトドアライフも満喫しました。磯は家族で楽しめる絶好のフィールドです。午後は、さるが島に移動し、自然散策路に沿って樹木の観察を行いました。さるが島はタブ・クスノキ・モチノキ・ヤブツバキ等の照葉樹が生い茂り、竹島とともに国定公園特別保護地区に指定された貴重な島です。島内はよく整備されていますので、自然観察をかねて訪れることをお勧めしたい島です。

こうして、民間サイド主導による観察会も大成功をおさめました。（川辺泰正）

## 東 三 河 支 部

### 4月24日（日）支部研修旅行（鳳来湖・乳岩峽）

快晴のもと、16名の参加者全員が難コースを走破し、ホソバシャクナゲ等の群落が見られました。

5月4日（水）講師派遣観察会 愛知県民の森 豊橋西武百貨店主催の親子自然観察会に講師派遣し、なごやかなムードの1日でした。参加66人。

5月29日（日）県委託自然観察会 蒲郡市竹島 県委託観察会は、支部にとって最大の行事です。本年は竹島海岸を選定しました。昨年の観察会で勝手知ったる場所とはいえ、念には念のため4月17日と5月15日に下見を行い、当日を待ちました。

前日来の雨が残り、曇り空であろうという天気予報が見事にはずれ真夏を思わす暑い1日でした。

8時50分受付開始。県より事前に入手した参加者名簿によって班分け・名札書きの準備をしたものの当日参加者もあって一時混雑しましたが、昨年の茸毛でのことを思えば一歩前進したといえます。最終参加者139名という大賑わいでした。

県自然保護課中尾補佐のあいさつの後、中西さんから日程説明、注意事項があって、10時から6班編成で観察コースを歩きました。特に今回は集団での参加（蒲郡ボーイスカウト30名・蒲郡南部小学校理科クラブ20名）は単独班で一般と区別しました。8人の指導員が引率して、A垂直分布・Bタイドプール・C砂浜の生き物・D貫入岩・E植物の仕組の5か所のポイントを回り、それぞれ作業や実験に目を輝かし暑さを忘れてメモを取る子供や親子のほほえましい姿があちこちで見られました。一方、指導員の方は、気温上昇と共に貝が弱まり砂に潜る動作が緩慢になると嘆く言葉も聞かれましたが、ともかく13時からのまとめとあいさつで無事終了しました。

指導員の反省と感想は結果良しといったところでしたが、どうも観察会にマンネリ化の傾向が見られるという意見には耳を傾け、今後の課題したいと思います。参加者のアンケートには厳しい意見もありましたが、観察会に参加するたびに自然に対する気持ちに変化するのがとても嬉しいという言葉に、私達指導員の苦勞も吹きとびました。

（武田孝夫）

- 13 -

# アミメカゲロウ発生状況調査

(水生昆虫調査委員会)

前回の協議会ニュースで概要を説明したように、本年8～9月にかけて、アミメカゲロウの発生状況調査を下記の要領により実施しますので、ひとりでも多くの会員が参加して下さいをお願いします。

## アミメカゲロウ発生状況調査実施要領

### 1 幼虫分布調査

- ① 調査時期 昭和63年8月
- ② 調査区域 愛知県内の庄内川全流域
- ③ 調査方法 任意の場所において、アミメカゲロウの幼虫がいるかどうか調査する(ただし、アミメカゲロウの幼虫は流水の川底の砂礫中に潜っているので、注意すること)

- ④ 調査人数 数人一組の班を作り、調査地域を定めるため、多人数を要する

### 2 亜成虫発生消長調査

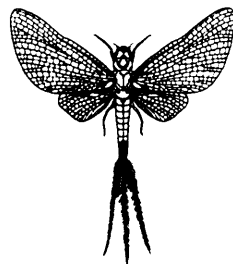
- ① 調査時期 アミメカゲロウ集団羽化第2日の午後6時から9時(9月7日前後が見込まれ、実施日については前日夜に電話連絡する)
- ② 調査場所 庄内川中流域(東谷橋から水分橋の間)
- ③ 調査方法 各橋の欄干付近にある水銀灯直下の空間を捕虫網(径40cm程度)で10回すくった際に捕獲したアミメカゲロウ亜成虫の個体数を数え、調査は7時00分から5分毎に実施し、個体数変化を調べる。  
(調査事例は、本年配布した「河川・池の自然観察」のP59からP62に掲載)
- ④ 調査人数 各橋最低2人要するため、合計10人が必要

従来より各地でアミメカゲロウに関する観察が報告されていますが、今回のように広い地域での同時観察は、全国でも初めての試みだと思います。

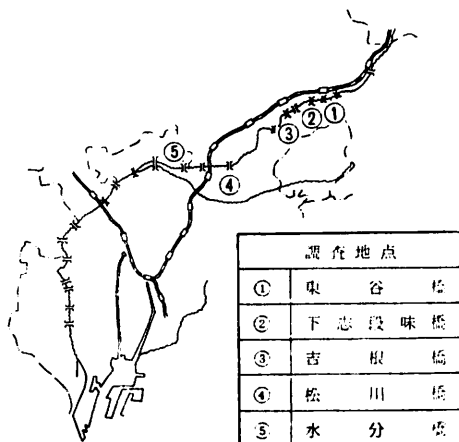
また、この調査により、流域による発生の違い・水質や環境の違いと羽化数の関係を始め、庄内川の水質汚染と今後の水質変化を知るための基礎資料が得られるものと期待されます。そして

何より、アミメカゲロウの大発生という自然界の神秘のひとつに、できるだけ多くの会員が接して欲しいと思います。

参加希望者は各橋にふり分ける必要がありますので、できるだけ早い時期に調査委員長(北岡)のP15の編集事務局と同じ)まで御連絡下さい、お待ちしております。なお、庄内川以外での観察も大歓迎です。



アミメカゲロウ亜成虫



調査地点	
①	東谷橋
②	下志段味橋
③	吉根橋
④	松川橋
⑤	水分橋

アミメカゲロウ発生状況調査地点

## 行 事 案 内

8・7 (日) 知多支部 クモの観察会 東海市農業センター 8:30
8・14 (日) 尾張支部 定光寺月例観察会 定光寺参道口(瀬戸市) 9:00 (テーマ) 水生昆虫と水質汚染
8・17 (水) 名古屋支部 例会 名古屋市教育館(上高地の自然) 18:30
8・21 (日) 協議会・植生研修会 Part Ⅲ 豊橋市自然史博物館(豊橋市) 10:00 申し込みは各支部連絡員まで
8・27 (土) ~ 28 (日) 東三河支部 研修旅行 茶臼山周辺の自然と親睦の旅
9・7 (水) 名古屋支部 例会(鳴く虫の観察) 名鉄瀬戸線矢田駅(庄内川) 18:00
9・11 (日) 尾張支部 善師野月例観察会 名鉄善師野駅前(犬山市) 9:00 (テーマ) クズを取り巻く食物連鎖
9・15 (祝) 東三河支部 一般公募観察会 汐川河口干潟やぐま台バス停 10:00 (テーマ) 干潟の生物観察
9・18 (日) 名古屋支部 一般公募観察会 名鉄瀬戸線大森駅前(守山区) 9:00
9・25 (日) 知多支部 緑の少年団観察会 半田地域文化広場駐車場 9:30
10・9 (日) 尾張支部 定光寺月例観察会 JR定光寺駅前(瀬戸市) 9:00 (テーマ) クスノキ科樹木勉強会
10・23 (日) 西三河支部 県委託観察会 東公園南駐車場(岡崎市) 10:00
10・30 (日) 知多支部 一般公募観察会 東海市大池公園動植物資料館 9:30

### 前 号 の 訂 正

P4のヒメボタルのカット (♀) → (♂)

### = 63年度会費納入のお願い =

協議会の活発な活動のためには、皆さんの会費が不可欠です。まだ納めてない方は、できるだけ早く会費を納入して下さい。

## お 知 ら せ

### ◎ 協議会の講座研修について

左の行事案内にありますように、8月21日(日)に豊橋市自然史博物館を会場にして植生研修Part Ⅲ(最終回)を開催します。豊橋短期大学の倉内一二先生と協議会副会長の中西正さんを講師に、午前中は講義、午後は実習を行います。参加料は300円(非会員500円)ですので、是非参加下さい。

また、11月12日(土)~13日(日)にかけて鳳来町愛知県民の森において、土壌動物(ダニ類)の権威青木淳一先生を招いて、土壌生物研修(第1回)を開催します。豊かな森林を支える分解者としての土壌生物の存在は、地味ですが非常に重要です。自然観察会の新しい視点としても土壌生物は有望ですので、会員の皆さんの御参加をお待ちしております。なお、今回の土壌生物研修は自然保護協会の機関誌を通じて他県の指導員の参加も呼びかけております。宿泊の関係で30名定員となっていますので、できるだけ早く各支部連絡員に申しこんで下さい。

### ◎ 指導員の登録について

昭和56年犬山市(犬山ユースホテル)、昭和59年に講習会を受けられた方(No.1500~1700及び3600~4400)で、まだ登録更新が済んでいない方は、大至急更新の手続きをして下さい。詳細は事務局に御連絡下さい。

(事務局:県自然保護課 052-961-2111 村田)

### 【編集後期】

今号は、協議会のビッグイベント全県一斉自然観察会の総まとめをしてみました。皆さん方がどう感じたか、「おたよりコーナー」に投稿して下さい。みんなで作る手作りニュースにしていきたいと思いますので、御支援をお願いします。(北岡)

編集事務局:瀬戸市原山町1-6 県職住宅  
3棟401号 北岡明彦